

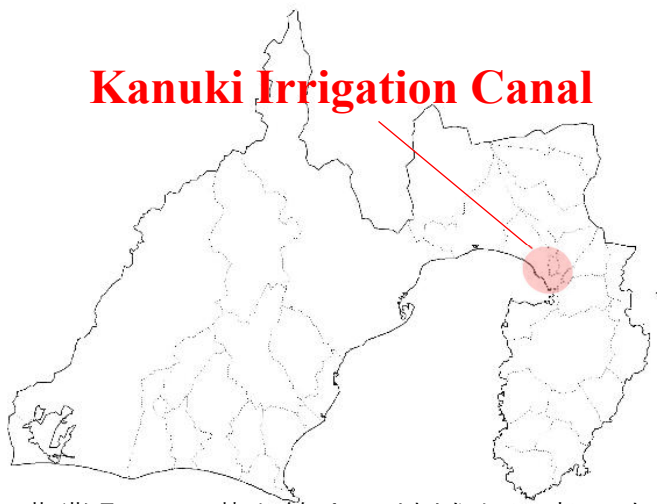
世界かんがい施設遺産

かぬきようすい

香貫用水

[静岡県・沼津市]

Kanuki Irrigation Canal



～農業発展の礎を築き、地域を見守る水路～



現在の香貫用水路

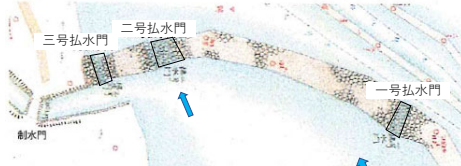
■香貫用水は、大河川である狩野川沿いにありながら水不足に苦しんでいた左岸河口付近の地域に安定した農業用水を供給するため、17世紀初期に植田内膳によって建設された総延長約5kmの農業用水路である。

■施設の造成に当たっては、取水口に石堰を三日月型に設置し、川倉を石堰の延長に置き水位を高めるとともに、払水門と呼ばれる、丸太の横棒と竹、こもを掛けて水流を堰き止める事により水位を上げ、大雨時には通水させる水門としての役割をもつ施設を3箇所設けた。また、取水口付近の用水路は、砂質土の用水路であったため、砂質土に炉灰を混ぜ、用水が浸透することを防止するなどの工夫によって、香貫地区へ待望の農業用水を引き入れることに成功した。

■香貫地区の農業は慢性的な水不足に悩まされていたが、元和6年～寛永6年頃（1620年代）、香貫用水が完成したことにより早魃がなくなり、「香貫二千石」といわれた農業発展の礎となった。

■現在、施設の維持管理は、沼津市が主体となり、地域農家で組織された香貫用水委員会、地元住民と連携しながら実施している。毎年8月15日には霊山寺にて植田内膳の供養祭が執り行われるなど、伝統文化を継承しながら地域農業を支えるかんがい施設の保全に取り組んでいる。

また、現在の香貫用水は、農業発展のみならず、防災施設としての役割も担っている。



平面図(払水門位置図)



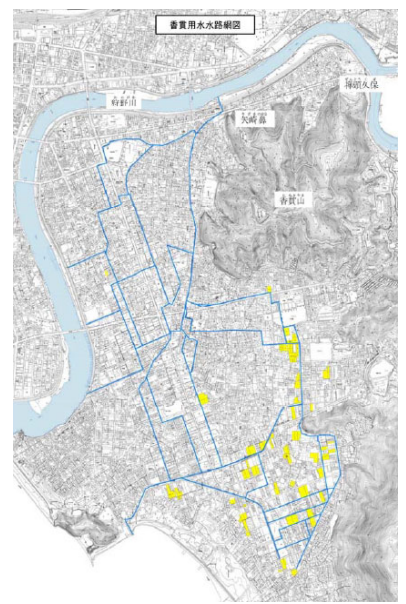
払水門のイメージ図



払水門にこもを掛けたイメージ模型



1692年の用水路図



現在の用水路図



川倉(むしろを貼る前)



川倉(むしろを貼った後)